

ヒアリングを踏まえた事業者への 追加質問及びその回答(第12回会合分)

前回会合以降の関係する取組について
(平成30年度接続料申請等の内容)

平成30年6月29日
総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 料金サービス課

目次

前回会合以降の関係する取組について(平成30年度接続料申請等の内容)

	質問	対象	ページ
12-1	資料12-4、P.9について、優先クラス1回線あたりの利用帯域の上限が定められているが、利用者数あるいは利用回線数には上限は無いのか。	NTT東日本・西日本	2
12-2	資料12-4、P.38について、優先クラスの需要予測がTbitとして記述されているが、接続料金が大幅に低下すると需要も増えると考えられる。需要予測には接続料金の低下の効果も加味されているのか。	NTT東日本・西日本	3

12-1

資料12-4、P.9について、優先クラス1回線あたりの利用帯域の上限が定められているが、利用者数あるいは利用回線数には上限は無いのか。

【NTT東日本・西日本】

回答

- NGNにおける優先クラスの2016年度実績トラヒックは非常に僅少であり、接続事業者の新規参入が見込まれる2018年度予測トラヒックにおいても全体の0.1%未満に止まっていることから、設定している1回線あたりの利用帯域の上限でご利用されたとしても、当面は、優先クラスを安心してご利用いただくことが可能です。
- そのため、音声用途以外のサービス等による需要拡大は想定されますが、現時点で優先クラスの利用者数や利用回線数の上限を設けることは考えていません。
- 仮に、ユーザの利用が集中することによって優先クラスのご利用をお待ちいただくエリアが生じた場合には、ユーザの収容分散により、可能な限りお待ちいただくことなく優先クラスをご利用いただけるよう努めるとともに、そのエリア情報を開示する考えです。

12-2

資料12-4、P.38について、優先クラスの需要予測がTbit として記述されているが、接続料金が大幅に低下すると需要も増えると考えられる。需要予測には接続料金の低下の効果も加味されているのか。

【NTT東日本・西日本】

回答

- 優先クラスの接続料を算定する際に用いた需要は、優先クラスを利用する全事業者※1がそれぞれ予測した需要※2を合計したものととなります。

※1 当社利用部門や当該年度に接続開始予定の事業者も含まれます。

※2 2018年度接続料の場合、2017年度第3四半期に当社が受領した2018年度の予測需要。
- 接続料金の低下がユーザ料金の低下につながるのであれば、需要が増えることも考えられますが、各事業者が優先クラスの需要を予測される際には、各事業者の営業戦略等、様々な要素が勘案されていると考えられます。
- NGNのコストドライバの見直し※3が優先クラスの接続料金水準が低下した要因となりましたが、2018年度適用の接続料の算定に用いる優先クラスの需要は、NGNのコストドライバの見直しを公表する前に全事業者から予測需要を受領していることから、各事業者において、その需要予測にあたり、コストドライバ見直しによる接続料金水準の大幅低下は考慮されていないと想定されます。

※3 2018年度適用の接続料において、中継ルータの上部ポートの帯域換算係数を加味しないトラヒック量を用いて算定する方法を一旦は採用するとの考え方を示したこと。(第10回接続料の算定に関する研究会(2017年12月22日開催)において公表)
- なお、NGNのコストドライバの見直しにより、ベストエフォートと優先クラスのケット単価が同額になり、実質的に優先クラスの意味がなくなるおそれがあるという課題が残っているため、2019年度以降の接続料においては、当社にてより適切なコストドライバ等を検討し、その内容についてオープンな場で議論・検討いただけるよう、対応していく考えです。